

令和5年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。以下のとおり集計結果をご報告いたします。
利府高をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ【https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated】をご覧ください。

実施日：令和5年11月24日（木）

回収日：令和5年12月1日（金）

対象：生徒（回答数743名 回答率97.0%）、保護者（回答数538名 回答率70.2%）、教職員（64名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価

実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

アイコン表記のルール 80%以上 60~79% 40~59% 40%未満 10%以上 0~9% 0%未満

Table with 5 main columns: 分掌 (Category), 実現度調査 質問項目 (Survey Item), 良好ととらえている割合 (Good Rating Ratio), 前年度比 (Previous Year Ratio), 分析 (Analysis), 改善策 (Improvement Strategy). Rows include categories like 教務 (Academics), 生徒指導 (Student Guidance), 進路指導 (Career Guidance), 健康教育 (Health Education), 部活動 (Extracurricular Activities), 生徒指導 (Student Guidance), 生徒指導 (Student Guidance), 企画情報 (Planning/Information), 総務 (General Affairs), 企画情報 (Planning/Information), 事務 (Administration), 生徒指導 (Student Guidance), 健康教育 (Health Education).

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大抵出来ている」	前年度比	分析	改善策
教務	家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。	生徒	89% → 3%	生徒の肯定的な回答は、前年度同様高い水準を保っている。教職員による恋うて的な回答は前年度より23%も上昇した。これはスタディサブリの導入により、生徒の自主・自立的な学習を促す効果があったとみられる。ただ、学習態度と学習効果が上がったかという相関関係は今後の検証を待たなければならない。	今年度から実施された新しい観点別評価によって、生徒の学習に対する取り組み方が変わってくる。知識だけでなく、思考・判断・表現を伴った学習内容により、「何のために学ぶのか」を考えながら学習に臨めるように環境を整えていかなければならない。その一方で、思考・判断・表現力は、確かな知識や基礎学力によって高められるものでもあり、基礎学力の定着は必要である。オンライン型課題配信スタディサブリを活用し、基礎学力を定着を図っていく。
		保護者	77% → 8%		
		教職員	72% → 23%		
教務	進学先の学業に対応できる学力を養成している。	生徒	92% → 1%	生徒の肯定的回答は92%で1%増、教職員は8%増であった。生徒、保護者、教員ともにこの5年間で上昇を続け、5年間の最も高い数値となっている。生徒と保護者の認識差は14%、生徒と教員の認識差は17%であり、保護者や教員が生徒に対して抱く「もっと頑張るのに」という期待との差であると思われる。学習や部活動の実績を生かした総合型選抜で受験する生徒が多いのは本校の特色でもあるが、一般入試でも対応できる学力を身に付けるには学習時間がありにも少なすぎず、「行ける大学」で満足しているのも関係しているのではないかと考える。	昨年度に引き続き、授業では生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図っていく。また、課題や小テスト、スタディサブリなどをうまく組み合わせることで学習内容を確実に定着させるとともに、成績上位層には発展的な内容に積極的に取り組ませる。日々授業改善に取り組んでおり、今後も基礎を固めながら実践的な問題にも対応できる学力を身につける授業を展開していきたい。「行ける大学」から「行きたい大学」への意識付けもおこなしていきたい。
		保護者	78% → 3%		
		教職員	75% → 8%		
進路指導	3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。	生徒	93% → 2%	肯定的な回答の割合は、生徒が93%、保護者が83%、教職員が89%でいずれも昨年度と比べるとやや上昇している。一昨年度から「総合的な探究の時間」を中心に3年間を見通した指導計画を見直し、生徒及び保護者に対して、一定程度ではあるが本校の進路指導体制が周知されているものと思われる。	次年度に向けて今年度の内容を継続しつつも、問題点等を検証し、改善策を検討することで、より充実した進路指導体制の確立を目指していくことが必要である。また、生徒及び保護者に対して、本校の進路指導体制をより一層周知してもらえるよう、積極的に情報を発信する機会を設けていきたい。
		保護者	83% → 5%		
		教職員	89% → 5%		
進路指導	「総合的な探究の時間」における進路指導が充実している。	生徒	92% → 2%	肯定的な回答の割合は、生徒が92%、保護者が83%で共に昨年度と比べるとやや上昇している。また、教職員が84%で昨年度と比べると大幅に上昇している。一昨年度から「総合的な探究の時間」を大幅に見直し、昨年度の問題点を踏まえながら今年度の「総合的な探究の時間」の指導計画を作成した。その結果として、教職員が求める指導内容に近づいているものと思われる。	近年、総合型選抜等において、高校生活で実施した「探究活動」の内容を問われることが多く、一昨年度から1・2年次の「総合的な探究の時間」の計画の中に「探究活動」を取り入れている。次年度以降も継続していく上で、今年度の生徒たちの活動状況等を改めて検証し、生徒たちにとってより充実したものになるよう、生徒や教職員の意見を集約しながら指導内容の創意工夫に努めていきたい。
		保護者	83% → 8%		
		教職員	84% → 12%		
進路指導	個に応じた適切な進路指導が行われている。	生徒	91% → 1%	肯定的な回答の割合は、生徒が91%、保護者が78%、教職員が91%でいずれも昨年度と比べるとやや上昇している。生徒や教職員と比較して保護者の肯定的な回答が低いことから、家庭との連携を図りながら3年次の受験指導を中心に生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を実践することが必要であると思われる。	本校は、生徒たちの進路選択が多様であることから、個に応じた適切な進路指導がより重要である。1・2年次の生徒の個別面談や、3年次の生徒を対象とした総合型選抜及び学校推薦型選抜に向けた個別指導等を継続しつつも、教職員全体で生徒一人ひとりに対応するといった意識を高めていく必要がある。また、ここ数年、一般選抜の受験者が増加傾向にあることから、課外授業などの内容の充実にも努めていきたい。
		保護者	78% → 5%		
		教職員	91% → 7%		
健康教育	全校清掃、校内外の美化活動を実践している。	生徒	92% → 4%	生徒、保護者の良好と捉える数値は平均して91%であった。教職員においては、89%と上昇した。コロナ対策として物品や環境は十分に整備しており、清潔な環境作りの取り組みが数値に表れたと考える。	清掃用具等の必要物品を整えるなどハード面は充実してきている。月1回の清掃と通常清掃をより丁寧に実施し、清潔で過ごしやすい環境作りを努めたい。
		保護者	90% → 0%		
		教職員	89% → 7%		
図書視聴覚	「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。	生徒	83% → 6%	良好と捉えている割合が昨年度と比べ、生徒で6%上がり概ね良好と考える。また、保護者の評価も昨年度より上昇している。しかし、教職員の評価は下がり、図書館運営において啓発活動をおこない図書館の情報発信するなどしていくことが課題である。図書館に設置されているパソコン、iPadのIT機器が整い、調べ学習や進路にむけて生徒たちにとって利便性が増したと考える。	今後とも生徒・教職員の要望を聞きながら蔵書の充実にも努めて魅力ある図書館づくりを推進する。また、図書館だよりの発行等を通して、利用促進に向けた情報発信に継続して取り組んでいく。新年度から新学習指導要領改訂の完成年度にあたり、新設科目に対応した資料収集を計画的におこなってきたい。
		保護者	78% → 6%		
		教職員	73% → -4%		
健康教育	衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。	生徒	91% → 5%	生徒、保護者、教職員の良好と捉える数値が上昇している。感染対策を講じながら衛生管理を行っている。学習環境の整備も少しずつではあるが改善していると考える。	日常的に使用する物を揃え、学習環境を整備するために有効活用していく。生徒の委員会活動では、扇風機、ファン、加湿器の清掃・設置をしたり、放送等での換気実施の呼びかけ等も自主的に活動できている。今後も継続していきたい。
		保護者	84% → 5%		
		教職員	92% → 3%		
総務	PTAや同窓会活動の充実にも努めている。	生徒	—	肯定的な回答の割合は、保護者90%、教職員97%になっている。PTA活動や同窓会活動について行事案内や広報活動を行っていることが、ある程度評価されている。一方で「あまり出ていない」「出ていない」と評価する保護者が約10%になっている。PTA行事への関心が低いことなどが原因ではないかと分析する。	PTA行事への参加案内をメール配信を活用しながら継続していく。今年度からPTA行事が研修旅行を除いてすべて実施されたが、参加者数は伸び悩んでいる。今後も積極的に広報活動をおこない、参加者を増やしていく。
		保護者	90% → 8%		
		教職員	97% → 8%		

実現度調査の分析と改善策【1年次】

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大抵出来ている」	前年度比	分析	改善策
1年次	体験学習(大学見聞会)をとおして、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。	生徒	92% → 5%	大学見聞会などを通して進路に関する基本的な情報を得ることで、92%の生徒たちは、大学で学ぶ意義や進路に対する視野を広げられたと捉えることができる。しかし、進路が未定の生徒や、進路について迷っている生徒も多く、進路目標を1つに絞り、達成に向けて具体的な姿勢や行動が見えないことから、19%の保護者にとっては肯定的に捉えられない部分があると考える。	来年度実施予定の一日総合大学を中心に、総合的な探究の時間での進路研究などを通して、自己の適性を知り、進路目標をより明確にしていくための機会を増やしていきたい。また、進路達成に向けて必要となることについては、生徒だけでなく、保護者に向けても、できるだけ情報を提供していくことを目指したい。
		保護者	81% → 14%		
1年次	継続的に週末課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。	生徒	94% → 7%	今年度からスタディサブリを使って国数英を中心に継続的に週末課題を実施しているが、ほとんどの生徒は習慣的に取り組んでおり、94%という高い自己評価率につながっているものと考えられる。しかし、保護者から見れば、それらの取り組みが、成績や模試の結果につながっているという明確な実感を得られていないことから、81%という生徒より13%も低い評価になっているものと考えられる。	週末課題などを継続して実施することで、生徒の家庭学習習慣の確立を目指したい。今年度はスタディサブリを使い長期休業の課外講習を実施し、部活動に参加したい生徒の積極的な講習を受講できる体制を整えた。参加者は60名弱とまずまずの参加であったが、直に書いて学習するという取り組みができなかったことが今後の課題になるであろう。さらに成績や模試の結果から自己分析を行い、家庭学習や課外講習への積極的な取り組みを促したい。
		保護者	81% → 5%		

実現度調査の分析と改善策【2年次】

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大抵出来ている」	前年度比	分析	改善策
2年次	一日総合大学をとおして、実際の大学の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。	生徒	95% → 2%	一日総合大学を通して、大学についての基礎知識を得ることで、95%の生徒たちは、進路選択に対する意識が高まったと捉えることができる。さらに担任との面談や年間の課外講習などを通して、進路について具体的に考える機会が増えたことその一因と考えられる。その結果、家庭でも進路について話し合う機会を持つことで保護者の視点からも良好という結果になったものと考えられる。	これまで総合的な探究の時間で取り組んできた探究学習をもとに、各自が目指す進路希望先への準備として、内容を整理し、より発展的なものへ仕上げていくように進路別学習などを通して進めていきたい。また、進路達成に向けて必要なことについては、早めに調べて行動するように促し、進路別学習や面談などを通して、より丁寧な進路指導を目指し、できる限り情報も提供しながら進路達成に向けて支援していきたい。
		保護者	81% → 6%		
2年次	自学自習の習慣を定着させるため、週末課題等の実施が継続的に進められている。	生徒	97% → 3%	今年度からスタディサブリを導入し、国数英を中心に週末課題を継続的に実施した。ほとんどの生徒はオンラインで配信される課題に抵抗なく取り組んだようで、実際に提出率も高いことから、97%という高い自己評価率につながっているものと考えられる。また、タブレットが貸与され、生徒の取り組み姿が家庭でも見られることから、保護者も良好と捉えたものと考えられる。	週末課題などを継続して実施することで、生徒の家庭学習習慣の確立を目指したい。今年度は、長期休業期間の課外講習の他に、年度初めに年間計画を立てて計12回の進路課外講習を実施した。継続して学習に取り組むことはもちろん、成績や模試の結果から自己分析を行い、弱点の克服や得意分野を伸ばすことの重要性について認識を高め、家庭学習や課外講習への積極的な取り組みを促したい。
		保護者	83% → 5%		

実現度調査の分析と改善策【3年次】

実現度調査 質問項目		良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大抵出来ている」	前年度比	分析	改善策
3年次	放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣が身につけられている。	生徒	94% → 1%	昨年度の3年次と比べると生徒は1%、保護者は5%肯定的な意見が増え、生徒の94%、保護者の82%が肯定的な意見であった。なかなか進路意識が高まらない中、担任が中心になって粘り強く声をかけることで講習参加者が増えたことが評価されたものと考えられる。また今年度進学を希望する生徒のための学習室を整備したことも功を奏したと言える。	保護者に対する対応としては、三者面談等を通して、進学準備のために課外を受けることの意義を更に強くアピールする必要がある。生徒を通して案内を渡してもなかなか保護者の目につかない実態なので、保護者宛の一言メールを活用することも必要である。生徒については、過去の卒業生の実態等を理解させ、日常の授業以外に課外を受けることが合格への近道であることを粘り強く訴えることが大切である。
		保護者	82% → 5%		
3年次	希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。	生徒	90% → -2%	昨年度の3年次と比べると生徒は2%肯定的な意見が減少する一方で、保護者は5%肯定的な意見が増え、生徒の90%、保護者の83%が肯定的な意見であった。今年度は例年より就職希望者が多かったため、進路別の学習も希望状況に合わせて組み直して行う工夫をした。生徒の評価は昨年度より下がりしたが、90%が肯定的な意見なので、評価されていると考える。	「総合的な探究の時間」を活用しながら、それぞれの年次の実態に合わせたプログラムを作ることを意識する。今年度同様、担任の指導の下、個々の課題に計画的に取り組ませていく。進路実現のための取り組みへの対応が鈍い生徒については、ガイダンスのタイミングを適切な時期に設定してさらに早めの対策を生徒がとれるよう促すことが効果的と思われる。
		保護者	83% → 5%		